

なにわ たいむず

No.101

contents

- 01 news / 理事長まえだのヨモヤマバナシ
- 02 お母さんの日々あれこれ
- 03 地域探訪 / アトリエナニワ
- 04 Case Book
- 05 シムインこいけのなんでも日記
サポータークラブ
- 07 スタッフ紹介

ケーキとアイスクリームの プレゼントを頂きました！



なにわの里と歩む会から頂いたご寄付で、年末にケーキ、年始にアイスクリームを購入させて頂きました。

外出等がしづらく、どうしても楽しみが少なくなっています。そんな中、ケーキとアイスのプレゼントがあり、利用者の皆さんは本当に喜んでおられました。「ご家族・後見人の皆さまからの温かいご支援、本当にありがとうございます」(小池)



NEWS

創立記念食

祝30周年パーティー

12月1日はライフサポートなにわの創立記念日、毎年恒例の特別記念食が振舞われました！今回は創立30周年という事で、

- ・ 海鮮ちらし寿司
- ・ エビフライ
- ・ ステーキ
- ・ 生ハムメロン
- ・ 松茸のお吸い物
- ・ 海老しんじょう
- ・ フルーツ

と例年よりさらに豪華なメニューでした！みんなでワイワイ...というわけにはいきませんが、お腹も気持ちも満腹の一日になったと思います。(小池)



理事長まえだの

本当にラストヨモヤマバナシ

さて、今回で前田がこのコーナーを担当するのは本当に、最後ということになりました(次年度以降は、漆嶋が毎回、担当することになります)。最後ということ、これまでの内容を読み返しておりますと「何も分からずに、偉そうなことを言っているな」と感じる、恥ずかしい文面ばかりで、月日を重ねることで、少しはマシな人間になってきたのかも？と、思ったりもしますが、グルグルまわっているだけかな？と、思ったりもします。どちらにしても、黙ってお付き合いいただいた皆さまには申し訳なく思うと共に、感謝したいと思います。

そんなことで、最後にはできるだけ、後で恥ずかしい思いをせずに済む何かを書き残そうと思いましたが、すぐに諦めました。

先代の理事長がまだ存命だった頃、私が「今になって気づくこと多いです」「独身時代は家庭持ちの気持ちなどほとんど理解できていなかったです」等々と話したことがあるのですが、「そんなこと分かるはずね」だろ」「分かるやつがいれば化け物だよ」と笑いながら話されていました。

「間違えてもいいから思い切つてやれ」との、私を安心させようとの心遣いだったと思いますが、「親子ほど年が離れた大会社の社長を経験された方でもそうなんだ」と少し肩の荷が降りた事を思い出しました。

「このところVUCA(予測不能)時代」「プリコラーシユ(ありあわせで何かとする)」「オーセンティックリーダーシップ(自分をさらけだして人を糾合)」「といったキーワードを目にすることが増えてきましたが、「先のことは分からない」「やれる人が、やれる時に、やれる限り、やれるだけのことをする」ということで(これまた法人の理事の言葉ですが)、スタッフが安心して実践、発信できる環境をつくっていかねばと思います。

ヨモヤマバナシ



さすが！！

サンタが苦手な娘。それでも、クリスマスプレゼントに何か欲しい物はないかと、さぐりを入れていました。

母「もうすぐクリスマスやんか？何か欲しいものないの？」

娘「サンタさんのプレゼントいらな～い」

母「ほんまに？ほんまに何か欲しいものないの？」

娘「……………あるよ！」

その言葉に驚き、思わず、

母「え！！何が欲しいの？？なにになに????」

と、やや前のめりに聞きました。そして返ってきたのは…

娘「ご～は～ん！」

これを聞いたのは夕食前。そりゃそうだ！と母も納得の大爆笑でした。「ちょっと、お腹すいてるんやけど！」という声まで聞こえてきそうでした(笑)

タイミングといい、言い方といい、全てが娘らしくて、「さすが！」の一言。そんな我が子にいつも笑わせてもらい、きゅんきゅんしている母です。 by N



お母さんが日々感じていることを
ちょっとだけ垣間見るコーナーです



もの作りってやっぱり楽しい！！

息子が小学校に入学した時、先生から子どもが自分で服の前後がわかるように服に印をつけてほしいと言われました。そこで可愛いワッペンを探しに行きましたが思うようなものが見つからず…ならば自分で作ろうと思い、YouTube やネットで色々調べ、アクリル絵の具で服に絵を描くことにしました♡クリアファイルに下書きをしてから切り抜き、アクリル絵の具で塗っていきます。色ものの服は、まず白い絵の具を先に塗り、下地を作るところから始めます。最初の1枚は完成まで3時間ほどかかりましたが、出来上がった時の達成感はたまりません👏他にも学校で使うエプロンや上靴袋など、『こうやったらどうなるやろ～』と考えながら子どもが使いやすいようにリメイクしました。

小さい頃から何かを作ることが好きで、服飾専門学校にも通っていた私👛家事や子育てに忙しく、作り始めるまで時間がかかりましたが、作り出すと楽しくて久しぶりにももの作りに熱中しました。 by かよスケツ。

日々の生活の中のちょっとした幸せを感じられる一幕について、お話していただきました。まだまだ先の見えない、不安な日々が続いています。そんな中で、「あ～私もこんなことあるな…」などなど、何かを感じて頂ける機会になればと思います。

(林・川端)

今回のテーマ

最近、

ときめいたこと





地域で暮らす当事者の方や、ご家族が使える

社会資源を紹介するコーナーです



学習サポート教室 大阪本校

すてっぷ

〒537-0013

大阪府大阪市東成区大今里南

6-28-12 東洋ビル 106号

TEL 06-6977-0045



今回は、布施駅の近くにある『学習サポート教室 すてっぷ 大阪本校』を訪問し、代表の宮原一恵さんにお話を伺いました。宮原さんは、塾講師を経験する中で、発達障がいや学習に困難さを抱える子どもたちの支援ニーズの高さを感じ、2009年より一対一の個別学習塾を運営されています。

すてっぷを利用しているのは、支援学級・支援学校に所属している子どもたちや、受験を控えている中・高校生など幅広い年代の子どもたちです。経験豊富なスタッフが、それぞれの子どもたちの能力・学び方に配慮した個別の課題や環境を準備し、学びのサポートをしています。授業後には、必ずご家族とやり取りし、家庭や学校での課題を共有します。“学力の向上”はもちろんのこと、必要に応じて学校と連携するなど、子どもとご家族が“より安心して日常生活を送ること”を大切にしています。また、大学の先生や心理士の方と共同で、ソーシャルスキルトレーニングを実施しています。ここでは集団遊びなどの“体験”を通して、より実践的な学びを得ることができます。

勉強が分からない、なぜ分からないのかが分からない。そんな風に悩んでいる子どももやご家族がおられるかと思えます。子どものつまづきの原因を紐解き、それぞれに合った内容で勉強ができる、また学びの可能性、将来の可能性を広げてくれる“すてっぷ”に大きな希望を感じました☆

(始田)



安心して学べるように、対面式、横並び式、パーティションを用いるなど、環境に配慮しています。



教材は、それぞれの能力・特性・課題に合わせて、個別に用意されます。

アトリエナニワ

なにわの里で使用している自立課題や支援ツールを紹介するコーナー

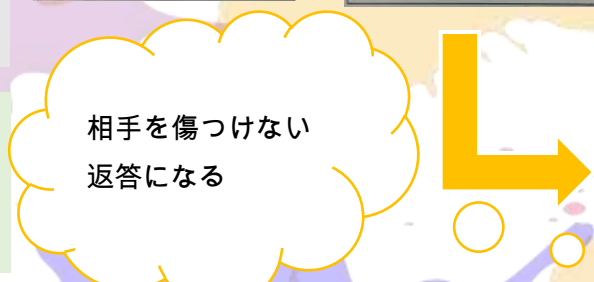
人付き合いを円滑にするワーク

【課題の説明】

人付き合いが苦手なお子さんのための学習プリントです。よりよい人間関係を築くやり取りを学ぶことができます。

【課題のメリット】

イラストで分かりやすく、またお子さんそれぞれのテーマに沿ったプリントを作成しています。

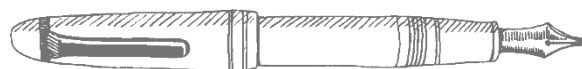


相手を傷つけない返答になる

(中林)

atelier naniwa

Case なにわの里 支援の実践紹介 book



コロナ禍での家族との面会

入所グループホーム支援2係

吉岡 和哉



【はじめに】

新型コロナウイルス感染拡大によって、なにわの里の日常も大きな影響を受けることになりました。2020年4月に緊急事態宣言が発令され、なにわの里でも、外出・帰宅を中止する対応をとりました。

今回は、緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルス感染拡大が減少傾向の時期に実施した、利用者さんご家族との面会の取り組みについてお話をさせていただきます。

【Aさんについて】

利用者Aさんは、自閉症・知的障害のある20代後半の男性です。なにわの里の施設入所支援と生活介護を利用されています。Aさんは予定（ご家族との外出等）をととても気にされる方です。そこで予定を伝える方法としてスケジュール等を使用しています。普段使用している物として

- ・ 一日の予定を示したスケジュール（写真①）
- ・ 一か月の予定を示したカレンダー（写真②）
- ・ 外出などの際に使用しているスケジュール（写真③） があります。

以前は、月に2回程外出されており、食べたい物を事前に決めてカレンダーに記入し、それをご家族と一緒に食べていました。しかし、新型コロナウイルスが流行し始め、外出や帰宅ができない状態になり、それまでのようには予定が組めなくなってしまいました。Aさんが楽しみにしていたご家族との外出も延期になってしまいました。



①一日のスケジュール



②カレンダー



③外出用スケジュール

【初めての面会実施】

感染者数が減少し緊急事態宣言が解除され、状況が少し落ち着くと、なにわの里でも面会のみ実施することになりました。迎えた面会当日、Aさんはお寿司をご家族と一緒に食べる予定でした。普段は居室で過ごすことが多いのですが、この日は少し落ち着かない様子で廊下を行ったり来たりしていました。そしてご家族が来所され、Aさんは面会の場所までスタッフと一緒に向かいました。

Aさんには『めんかい』と書かれた写真付きのカードで予定を伝えていたのですが、うまく伝わっていないのか「がいしゅつ」と訴えがありました。

Aさんはお寿司を食べ居室へ戻りました。しかし、戻る途中にご家族の車を見つけ、車に乗ろうとしました。Aさんの表情が曇りはじめ、不安そうな表情になっていきました。スタッフが次の活動に移るように促すも応じてもらえず、車の前で立っていました。そこでご家族とやりとりし次の面会日程を決めて、Aさんと居室にあるカレンダーで次の面会日を一緒に確認しました。しかし、自傷行為や物を投げるなどの行動がしばらく続きました。

【1回目の面会の振り返り】

初めての面会を終えて、『めんかい』という伝え方ではイメージがしづらかったのでは、よりAさんにとってわかりやすく予定を伝える必要があるのではないかと考えました。スタッフ間で振り返りを行い、次の面会の際にはどのような対応をとるのが良いかを考えました。そこでいくつか案が挙がりました。

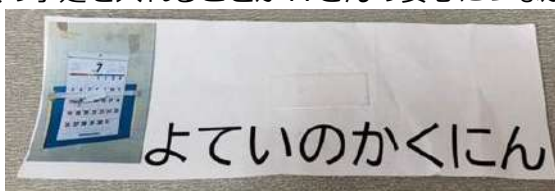
- ① カードや文字の大きさを工夫し、Aさんにカードに書かれている内容がより伝わりやすくなるよう構造化する。
- ② 次の面会の予定をあらかじめご家族と決めておき、『よていのかくにん』（写真④）という手順を外出用のスケジュールに入れて、次の面会日をAさんとスタッフが一緒に確認するという流れにする。
- ③ ご家族の車が見えると外出に行くと思ってしまうかもしれないので、Aさんから見えない場所に車を停める。

これらの対策を次の面会までに準備しました。

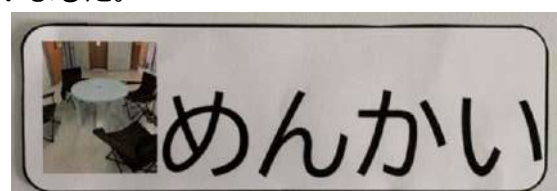
【2回目の面会】

2回目の面会は、ハンバーガーを食べる予定でした。今回は一度面会を経験したからなのか、前回に比べて面会前の様子も落ち着いていました。

まず、外出用のスケジュールの「めんかい」（写真⑤）を確認します。ご家族と面会し、ハンバーガーを食べ居室へ戻ります。次に『よていのかくにん』のカードをとり、スタッフと一緒に居室のカレンダーで次の面会日を確認しました。Aさんは終始落ち着いた様子で面会に臨むことができました。やはり一度面会を経験していること、次の予定を入れることがAさんの安心につながったと思えました。



写真④ 「よていのかくにん」カード



写真⑤ 「めんかい」カード

【おわりに】

初めての面会では、Aさんは不安になり混乱してしまう結果となりました。そこで、Aさんに理解しやすい形で予定を伝えることを考え、2回目の面会に臨みました。一度面会を経験していたことが影響したのかもしれませんが、『よていのかくにん』という手順を新たに入れたこともAさんの安心につながったのでは、と思えます。どの要素がAさんに影響を与えたのかははっきりわからない面もありますが、落ち着いて面会を終えることができ安心しました。

ジムインこいけのなんでも日記

穏やかさを保てる理由

なにわの里で新型コロナウイルス対策を始めて、もうすぐ一年。その間、入所施設やグループホームの利用者さんたちはご実家に帰宅することができず、生活が一変しました。調子を崩される方が多く出るだろうな・・・と思っていたのですが、そこまで大きなことはなく皆さん穏やかに過ごされている、という印象を受けています。帰宅が楽しみでないはずがなく、大好きなご家族に会えるのは何よりの楽しみだと思います。大きな楽しみがなくなっているのは確かだと思うのですが、全体としておおむね穏やかに過ごしておられます。

先日、配食当番をしているときに、一人の利用者さんが食パンに一生懸命ジャムを塗っているのに気づきました。偏りなく本当にきれいに塗っておられるのです。塗り終わって、嬉しそうにパンを食べておられました。自分だったらテキトーにジャムを塗ってパッと食べてハイ終わり、次は・・・となると思うのです。でもその利用者さんはきれいにジャムを塗ることに集中し、うまくいったことやりがいや嬉しさを感じ、美味しそうにパンを食べておられました。

穏やかに過ごしている理由が少しだけわかったように感じました。現場にいたところに「そんなんええやん・・・」と思っていた(なんなら途中で止めてしまっていた)利用者さんたちの「いつもの行動」。勝手に「価値や意味があるのだからか」と思ってしまった行動によって、世の中が不安げに変動するときでも利用者さんたちは穏やかさを保つことができるのではないかと感じました。効率や生産性の高さを最優先に求める価値観の上では「意味のない行動」とされるかもしれませんが、でも、「穏やかな気持ちを持つことを大切にすること」という価値観の上では、かけがえのない行動なのだと思います。そして、それは世の中がどう変わろうと、コロナ禍で自粛を求められようと、なくなるものではありません。「不変的な、かけがえのない行動によって穏やかさを保つことができている」ということを教えてくださったのだと感じました。このコロナ禍において、どんなことに価値を感じ、どんなことを大切にしていきたいか、自分自身もう一度考えていきたい、と思っています。

なにわの里サポータークラブに資金又は物品・労力などご支援をいただいた方々(敬称略・順不同)

2020年 10月 1日 ~ 12月 31日

法人・団体の部

なにわの里と歩む会

個人の部

小畑 貴央	坪田 裕子	藤井 美江	中島 恭子	塩田 直人	山下 孝子
小島 純子	森 克雄	渡邊 信邦	本部 文雄	石井 純代	湯里 一夫
井谷 有希子	井堂 光	小畑 拓嗣	金田 珠江	亀井 幸子	河田 八州子
神田 泰寛	北森 美英子	車谷 清里	合田 裕章	小島 俊郎	坂本 美弥
佐藤 太志	高岸 恭子	多田 たから	千原 昭二	寺田 誠一	時野 浩司
中島 貞一	中谷 弘子	中田 美津子	西田 敏之	濱田 由紀子	馬場 勝巳
藤原 昌	藤原 緑	松尾 保隆	松田 由紀	松原 史敏	道本 明
光田 英弘	宮崎 正己	森 央樹	安井 喜誉嗣	油利 悦彰	油利 彰博
赤松 福枝	井形 正信	井田 博	井上 篤	生駒 ひとみ	佐々木 雅美
田中 賢一	中川 龍樹	長橋 徹也	延田 輝	三好 智行	林 由子
村松 克己	保田 千里	山本 二三子	北浦 康司	徳原 大輝	中谷 亜希
中根 正治	三木 由貴男	湯浅 珠樹	友成 昌子	車谷 二三夫	辰巳 正夫
太田 稔					

STAFF INTERVIEW

なにわの里スタッフの紹介コーナーです。インタビュー形式で、スタッフの声をお届けします！

— 福祉の仕事に就こうと思ったのは？

知り合いで障害分野の仕事をしている人がいるのですが、子どもの頃からその人の話を聞く機会がよくありました。話の内容は楽しいことばかりではなく、大変そうなことも含まれていたのですが、それも含めてイキイキと話されていたのが印象に残りました。自分も福祉について学び、そんな仕事をしてみたいと思うようになりました。

— 現場で働いていて、しんどいなと思ったことはどんなことですか？

2年目のときに、ショートステイ(短期間の入所)の利用者さんを担当しました。混乱すると激しい行動が出る方で、3カ月ほどおられました。さまざまな支援を行って見たのですが、なかなかその方の状態が落ち着くことはありませんでした。その方が求めている支援はどんなことなんだろう、穏やかに過ごすためには何が必要なんだろうと悩みました。

— 飛瀬さんが考える、この仕事のやりがいってなんでしょう。

しんどかったことの裏返しみたいな話なのですが、利用者さんと関わり支援をしていく中で、その生活が良くなっていったり、穏やかに過ごせるようになる様子を間近で見られる、そういうところがやりがいだと感じています。



飛瀬 啓佑
(入所グループホーム支援2係)

第101号

2021年2月22日発行

発行責任者 前田研介

社会福祉法人 なにわの里

〒582-0025 柏原市国分西 1-3-43HOPE ハウス 202

E-mail naniwa@naniwanosato.jp

HP <http://naniwanosato.jp>

Facebookでチェック 

右のQRコードから
かんたんアクセス！

